ＪＭＡＴに参加して

糸魚川市・ひまわり内科
森　田　　英

震災後の一連の新潟県の医療活動の中、ＪＭＡＴの募集があったので、何も考えずに殆ど反射的に手を挙げた。医師会の交代の関係で、偶数日の出発に合わせねばならなかったが、概ね希望通りに４月８日～10日に石巻に行くことが出来た。行けば何か役に立てるのではないか、という程度の心構えで、どちらかといえば軽い気持ちで出掛けるはずだった。しかし、出発数時間前の７日夜に震度６強の余震があり、改めて気を引き締めて出掛けた。

避難所に設けられた新潟県診療所での活動は、被災後１か月近く経って落ち着いていた。急性期の方は既に処置済みで、慢性疾患の方も診療が一巡した後で、時節柄、風邪や花粉症が多かった。人数も担当した避難所の規模も小さかったためか、午前中で十数名、午後は数名程度だった。医師数も充足していたので診療の他、残されていた薬や各病院から持参された薬を整理し、不足した薬のリストアップなども行った。

宿泊所では新潟県の確保スペースが少なく、寿司詰め状態で寝袋で寝た。早く寝るためか朝がやたら早く、６時過ぎには食事も済ませ、順に出発して行く。現地の診療所に９時半集合で、３時間余りも時間が余るため、車で震災現場を見て廻ったというか、ナビも土地勘も無い所で、さまよっていた。商店街もヘドロと瓦礫の山に埋もれていた。市立女子校近くの旧石巻城趾、日和山公園からは石巻市内を一望出来､震災名所と化していた。

４月８日からの新潟県ＪＭＡＴ班は公募の初回だったためか、医師が７名おり、避難所の規模からみると医師過剰だった。その割にパラメディカルが少なく、頭でっかちな構成だった。私のような特別な訓練も受けていない医師は、来る必要がなかったのではないかと、現地では落ち込み加減にもなったが、こんな諺も思い出して自分を勇気づけた。

「義を見てせざるは、勇無きなり」と。